

# 分析結果報告書〔 2 〕 1 / 2

## 1 . 2 土壌試料(砒素)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得(複数回答可)	1 . ISO 9001 ~ 9003 2 . ISO 14001 3 . ISO/IEC 17025(ガイド 25) 4 . M L A P 5 . 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	( ) 年
分析主担当者の実績(年間の分析試料数)	( )

回数	分析結果 (mg/kg) 注 1 )	
	検出下限値以上 注 2 )	検出下限値未満での検出下限値 注 3 )
1 回目		
2 回目		
3 回目		

注 1 ) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注 2 ) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字 3 桁で記入する。

注 3 ) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字 1 桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1 . ジェル矽酸銀吸光度法 2 . 水素化物発生原子吸光法 3 . 水素化物発生 ICP 発光分光分析法 4 . その他 ( )
使用した水	1 . 蒸留水 2 . イオン交換水 3 . 超純水 4 . その他 ( )

### < 試験溶液の調製 >

試料量	( ) g
試験溶液の調製に用いた酸の量	
硝酸	( ) ml
硫酸 (1+1)	( ) ml
注 4 ) 過塩素酸	( ) ml
定容量(試験溶液量)	( ) ml

注 4 ) 使用しなかった場合には、「 0 (ゼロ) 」とする。

## 分析結果報告書〔 2 〕 2 / 2

< 予備還元等 >

試験溶液の分取量	注1)	( )ml
予備還元等に用いた試薬 (酸を除く)	よう化カリウム 塩化不溶(II) 鉄( ) 臭化カリウム アスコルビン酸 その他の試薬	1. 使用する 2. 使用しない 1. 使用する 2. 使用しない 1. 使用する 2. 使用しない 1. 使用する 2. 使用しない 1. 使用する 2. 使用しない ( )
予備還元後の溶液(定容量)	注1)	( )ml
予備還元後の溶液の液性 (概略濃度)	塩酸濃度 硫酸濃度	( )mol/l ( )mol/l
還元剤		1. 亜鉛粉末 2. 亜硝酸ナトリウム(水素化ほう素ナトリウム) 3. その他( )

注1) 分取しなかった又は定容としなかった場合には、記入しない。

< 吸光光度法 >

吸収液	1. ジェルジチオガバミン酸銀とブリンのクロホルム溶液 2. ジェルジチオガバミン酸銀のピリン溶液 3. その他( )
測定波長	( )nm

< 水素化物発生原子吸光法及び水素化物発生ICP発光分光分析法 >

導入方法	1. 連続式 2. 貯圧式 3. その他( )
原子吸光分析装置	1. 行わない 2. 重水素ラップ 3. 偏光ビーム 4. その他( )
測定波長	( )nm
ICP発光分光分析装置	1. 波長走査(シーケンシャル) 2. 波長固定(マルチ) 3. その他( )
装置の型式	1. 行う 2. 行わない
バックグラウンド補正	1. 使用しない 2. 使用する
超音波ネーライザーの使用	( )秒
測定時間	( )nm
測定波長	

< 検量線の作成等 >

定量方法	方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法
検量線	内標準法: 内標準物質の種類 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	1. イットリウム 2. インジウム 3. 列ウム 4. ビスマス 5. その他( ) ( ) 最小( ) ~ 最大( ) 注2) ( )
試料の指示値	( )	注3)
空試験の指示値	( )	注4)
検出下限値	( )	mg/kg 注5)

注2) 吸光光度法では量(μg)、原子吸光法及びICP発光分光分析法では分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/l)を示す。

標準添加法では添加した量又は濃度を示す。

注3) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 試料中の濃度(mg/kg)として示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--